

◎学会活動
現代中国学会主催講演会

三月一六日「中国台頭の背後に一個人・共同体・そして国」許紀霖（中国華東師範大學歴史系教授）

◎学会員活動
川村亜樹「二〇世紀アメリカ文学のボリティクス」（共著、世界思想社、二〇一〇年六月）

黄英哲「華麗島の冒險——日治時期日本作家の台湾故事」（共編、台湾麦田出版、二〇一〇年一月）、「跨界者陶晶孫的台灣觀察——論『淡水河心中』」（学会発表、東南亞与東北亞——複線歴史与多元文化的再省思』学術検討会（二〇一〇年二月二二～二四日、於中国清华大学）、「越境者としての陶晶孫——『淡水河心中』論」（立命館文学』第六五号、二〇一〇年三月）

高明潔「国際社会に向かい合う中国の民間組織」（報告、愛知大学国際中国学研究センター・北海道大学東アジアメディア研究センター共催、国際シンポジウム「現代中國の国際的影響力拡大に関する総合的研究」

薛鳴「在日中国人子女の言語使用意識とエスニシティ」（報告、「共同研究会 日本における移民言語の基礎的研究」二〇一〇年三月十九日、於国立民族学博物館）、『言語とコミュニケーション』（共著、好文出版、二〇一〇年三月）

馬場毅「中国の对外教育——孔子学院を中心にして」（報告、愛知大学国際中国学研究センター・北海道大学東アジアメディア研究センター共催、国際シンポジウム「現代中国の国際的影響力拡大に関する総合的研究」二〇〇九年一二月一九日、於愛知大学名古屋校舎）、「近代中国華北農村の水利組織と村落・宗教團について——河北省邢台県を中心にして」（論文『愛知大学国際問題研究所紀要』第一三五号、二〇一〇年三月）、「小林一義著『中華世界の國家と民衆』上・下巻】

（書評、『中国研究月報』二〇一〇年二月号）

Vol.34

松岡正子「五・一二汶川大地震後羌族民族文化資源の重建与創構——羌文化是怎样被創構的」（基調講演、国立臺北芸術大学文化資源（論説）王柯、大川謙作、片岡樹、小島麗逸、シンジルト、田曉利、長谷千代子、星野昌裕、村上大輔、楊海英ほか

問題研究所研究報告会、二〇一〇年六月、於愛知大学名古屋校舎）

砂山幸雄「並木頼寿氏の遺稿に寄せて」（中

中国21 Vol.34 予告（百人1月刊行予定）
特集●民族・国家・開発（仮題）

民族地区は、状況が見えにくい。事あるごとに情報が制限され、突然途絶えることからだ。貧困解消をめざした西部大開発がとなえられて十年、巨額の公的資金が投入された経済開発は、誰を潤したのか。民族自治区では、漢族が急増する一方で、少数民族が沿岸地区的都市に出稼ぎに向かう。漢族人口は、内モンゴルや寧夏では約八割に達し、新疆では一九四九年に一割にも満たなかつたのが四割を超えた。政府は民族地区をどのように形に変えようとしているのか。二〇〇一年に改正された民族区域自治法では、公的機関の民族幹部枠が設けられるともに、義務教育初期からの中中国語教育が義務づけられた。国民教育の普及が着々と進められるなか、西の新疆や南のチベット、北の内モンゴルでは厳しい監視体制のもと根強い不満と緊張が続く。Vol.34では、現場を知る気鋭の研究者が、開発をキーワードに、民族地区の現状と課題を分析する。

（論説）王柯、大川謙作、片岡樹、小島麗逸、シンジルト、田曉利、長谷千代子、星野昌裕、村上大輔、楊海英ほか